

大谷 本塁打王

44本、大リーグ日本勢初

【アナハイム共同＝白石明之】米大リーグ、エンゼルスの大谷翔平(29)が44本塁打でアメリカン・リーグのトップを守り、日本選手初の本塁打王に輝いた。

1日にア・リーグのレギュラーシーズンの全日程が終了。大谷は9月3日の出場を最後に右肘手術を受けて今季を終えたが、メジャー6年目で投打通じて初のタイトルを手にした。日本選手が打撃部門の主要タイトルを獲得したのは、2004年に2度目の首位打者となったイチロー(マリナース)以来。

日本代表を優勝に導いた3月のワールド・ベースボール・クラシック(WBC)に始まり、開幕から投打「二刀流」で活躍。6月は球団と日本選手の月間最多記録となる15本塁打を放ち、9本塁打をマークした7月と2カ月連続でア・リーグ野手部門の月間最優秀選手(MVP)に輝いた。

前半戦をメジャートップの32本で折り返したが、8月23日に右肘靱帯の損傷が見つかり、9月19日に2度目の右肘手術を受けた。24年は打者に専念し、投打での復帰は25年になる見通し。

今季打者では打率3割4厘、95打点で、投手では23試合で10勝5敗、防御率3・14。オフにはフリーエージェント(FA)になり、2年ぶりのア・リーグMVP受賞も有力視されている。



米大リーグ、レッズとのダブルヘッダー第1試合で44号2ランを放つエンゼルスの大谷翔平＝8月、アナハイム(共同)